

竜巻等突風の強さの評定に関する検討会 報告書（案）の確認

令和6年3月19日

気象庁

竜巻等突風の強さの評定に関する検討会（概要）

- 「竜巻等突風の強さの評定に関する検討会」では、竜巻等の突風の強さを迅速かつ的確に評定するため風工学等の研究者と連携して、日本版改良藤田スケール（JEF）を策定した。同スケールは2015年（平成27年）に公開し、その後2016年（平成28年）4月から気象庁の突風調査で評定を開始した。
- 2016年以降の検討会では、日本版改良藤田スケールの評価や検証を行うとともに、最新の研究成果を取り入れながら適宜、ガイドラインの改正を実施した。

2012年
(平成24)

5月6日 顕著な竜巻災害発生（茨城県つくば市ほか）

竜巻注意情報等の現状並びに住民への伝達と利活用における課題を整理し、今後の情報の改善に向けて検討する

7月 竜巻等突風に関する情報の改善について（提言）

- 竜巻等の強さを迅速かつ的確に評定するための仕組みを設けること
- 日本国内で発生する竜巻の強さをよりの確に把握するための指標の作成 など

2013
(平成25)

7月 竜巻等突風の強さの評定に関する検討会（風工学、気象学の専門家で構成）

検討会の任務（第6回まで）

- 竜巻等突風の強さの評定を行うためのガイドラインの科学的な妥当性等に関する助言及び評価
- 気象庁が行う竜巻等突風の強さの評定への助言

2015
(平成27)

12月 「日本版改良藤田スケール（JEF）に関するガイドライン」策定

突風の強さを評定するための技術的指針

2016
(平成28)

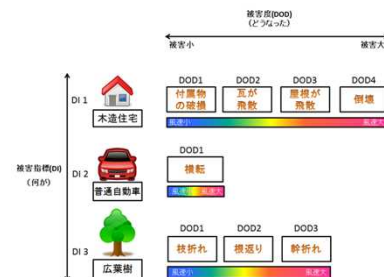
4月 気象庁の突風調査で日本版改良藤田スケールによる突風の強さの評定開始

検討会の任務（第7回～第13回）

- 突風発生時のJEFスケールを用いた評定に関する助言
- 関連研究の進展等に応じたガイドラインの評価・見直し

2024
(令和6)

JEFスケールを使って竜巻等突風の強さをより精度を高く評定することが可能に



日本版改良藤田スケール（JEF）

「竜巻等突風の強さの評定に関する検討会」報告書（案）

1. はじめに

検討会の取組の概要、きっかけとなった経緯

2. 検討の背景と取組状況

「日本版改良藤田スケールに関するガイドライン」を参考にしながら、ガイドライン策定の経緯を記載

- (1) 気象庁の突風調査業務
- (2) 藤田スケール
- (3) 藤田スケールの課題
- (4) 改良藤田スケール（EFスケール）
- (5) 日本版改良藤田スケール（JEF）の策定に向けた取組

3. 日本版改良藤田スケールとその特徴

「日本版改良藤田スケールに関するガイドライン」を参考に記載

- (1) 日本の建築物等に対応した被害指標及び被害度の導入
- (2) 被害指標（DI）及び被害度（DOD）に対応した風速の設定
- (3) 統計的な継続性を考慮した階級と風速の対応

4. 日本版改良藤田スケールによる評定方法

「日本版改良藤田スケールに関するガイドライン」を参考に記載

5. 日本版改良藤田スケールの評価と改善

日本版改良藤田スケールによる評定を開始してからこれまでの評定の状況を記載

また、これまでの運用で顕在化した課題やその解決に向けた取組を記載する

- (1) 日本版改良藤田スケールによる突風の強さの評定とその結果の公表（竜巻等の突風データベース）
- (2) 日本版改良藤田スケール策定後の突風の強さの評定状況
- (3) 竜巻等突風の評定に関する検討会でのJEFスケールの評価・見直し

6. まとめ

これまでの検討会で議論された事項のうち、中長期的に解決が必要な検討課題を掲載

7. 終わりに

将来に備え、気象庁と風工学や気象学の専門家との連携を継続することが望ましい